



学校だより

平成 30 年度 12 月号
平成 30 年 12 月 3 日
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

Positive Thinking

校長 柳澤 登紀男

師走。木の枝に寒風を感じる季節、本年度も3ヶ月余りとなりました。空気は日に日に冷たくなりますが、正門の周りや昇降口にかけての風景は温かです。PTAの皆様の植栽活動による秋・冬の花々で華やかになり素敵な環境です。寒い朝も心の中から温かくなります。

県の新人戦では男子バスケットボール部が第3位となり、市の中学校特別支援学級合同スポーツ大会（ビーチボールバレーの部）では、8組が総合優勝・エンジョイリーグ優勝と2冠に輝き、他にも市の水泳新人戦や各大会、科学展や理科教育研究発表会、作文コンクールでの入賞等、生徒の活躍が続いています。とても誇りに思います。3年生では、三者面談・面接練習も始まり、進路選択への取組が本格化してきました。一人ひとりが自分の将来について真剣に向き合い、今できることにベストを尽くしてほしいと願っています。

さて、本校の教育目標にある「たくましく」が表す目指す生徒像に、「夢や希望が持てる生徒」、「何事に意欲的に取り組む生徒」があります。子どもたちと接していると、皆、素直で明るく、前向きで頑張り屋だと感じます。また、心優しい人がたくさんいます。しかし、もしかしたら、心配や不安、劣等感などを抱き悩んでいる子どもがまだいるかもしれません。子どもの小さな変化を見逃さず、迅速・適切・組織的に対応する教育相談体制の充実、優しさと思いやりがあふれる人間関係づくりに気が抜けない毎日です。それと同時に、もう少し先を見据え、生徒が大人になり社会で自立していくための第一歩となるこの時期から、「たくましさ」「前向きな姿勢」「自己肯定感」などを、「思いやり」とともに育てていくことも重要な課題と考えています。

Positive Thinking（前向きな考え方）という文言があります。私は、もう「いい大人」ですが、危機的な場面ではプレッシャーを感じ、時として精神的に追い込まれたり、弱気になったりすることもあります。そんな時、「人間そんなに強いものではない。あれこれ悩んだ挙句たどりつく結論は、ひと休みしても、後戻りしても、最終的には『前に進む』ことしか無い。」という思いに行き着きます。「…という結果になったらどうしよう」という不安を意図的に断ち切り「…してみよう」という、**Positive Thinking** で自分自身を鼓舞します。その支えとなるものは、「自分を信じること」と「覚悟」です。

生徒には、中学校生活すべてを通じ、失敗を恐れず様々なことにチャレンジしてほしい。「不安や悩みは自分一人のものではない。誰かが聞いて、相談に乗って、支えてくれる。」と信じてほしい。「自分はダメな人間なのか。他の人より劣っているのでは。」と自分を振り返ることは悪くない。これから自分を高めようとする第一歩だと考えてほしい。しかし、「自分を追い込む」ことはよくない。明るく前向きな姿勢をさらに磨き、たくましく成長してほしいと心から願う今日この頃です。

2学期が終わり、「一年間のまとめ」と「次へのステップ」となる3学期を迎えます。生徒たちが自身を磨き、より「かしこく」「たくましく」なれるように指導してまいります。

引き続き、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

